

# 看護師からみた保健管理センターの10年の歩み

岡田 ミキ

愛知教育大学保健管理センター看護師

## I. はじめに

保健管理センターが、設置されて28年が過ぎようとしております。

このうち平成7年4月から平成17年3月まで(無事に定年退職を迎えることができますなら)10年間勤めさせていただくことになります。この10年間保健管理センターは時代の変化や学生のニーズに応じて保健管理業務の内容を見直し、更に充実を図るため工夫を試みて参りました。

保健管理センターの目的は、本学の保健管理に関する専門的業務を行い、学生及び職員の健康保持増進をはかることです。また、サービス内容として定期健康診断・応急処置・健康教育・健康相談・健康診断証明書の発行などがあります。

私の在職しました10年間で保健管理業務が大きく変わった点について述べてみたいと思います。

## II. 学生定期健康診断

日程と方法については平成6年までは春と秋の年2回分割方式で行っていたが、平成7年より毎年4月に一括方式に変わった。平成7年から平成10年までは授業開始後11日間かけて実施した。次に平成11年から授業開始前に行うようになり、胸部X線撮影の機械を2台に増やして健康診断期間を縮小することができた。(11日間から6日間へ)

## III. 健康教育・健康指導

### ① [生活習慣チェックリスト] による生活指導

生活習慣の乱れによって健康が損なわれ保健管理センターを利用する学生が多い。そこでセンターでは藤田先生の協力を得て当大学独自の[生活習慣チェックリスト]を作成して、平成11年から学生定期健康診断時に実施した(ホームページも掲載)。このチェックリストで総合点数

23点以上および毎日不眠の学生を呼び出しして個別指導をはじめた。平成15年から毎日喫煙している学生を呼び出し禁煙指導も行った。

### ② やせ・肥満の保健指導

平成11年から学生定期健康診断時やせ・肥満のスクリーニングをして、その結果で保健指導を開始した。

### ③ 月経障害者の保健指導

生理痛に伴うセンター利用者が多いことから、平成10年から学生定期健康診断時にアンケートを実施してその結果で呼び出し個別に指導した。

### ④ 救急法実技講習会

平成10年に部活の試合中に本学学生が突然死したことを受けて、当センターでは救急法実技講習会の必要性を感じ、実際の指導は刈谷消防署に依頼し講習を開催した。最初は体育系団体(クラブ・サークル)のリーダーを対象に行なっていたが、平成13年より文化系団体も参加するようになった。平成16年からは人事課とセンター共催になった。

### ⑤ 結核予防活動

旧厚生省が、平成11年7月26日「結核緊急事態宣言」を出した。結核は過去の病気ではなく、当時年間4万人以上の新規感染者が発生し、2千7百人が亡くなるわが国最大の感染症である。当センターでの取り組みは、センター内に看護師作成のポスターを掲示し、結核予防用小冊子を1年生ガイダンス時に配布するようにした。入学式後、新入生ガイダンスで結核に注意するように指導している。また教育実習事前指導においても、同様に留意するよう指導している。

### ⑥ 生協学生委員会主催健康まつりへの協力

平成10年から生協学生委員会の学生よりの協力依頼があったため、看護師が出向いて学生と共に健康相談を行うようになった。

#### ⑦クラブ代表者説明会（学生課主催）での保健管理センタータイムの確保

平成10年から保健管理センタータイムをいただいて看護師が参加するようになった。内容は、救急の事態での保健管理センターや病院への対応、救急車の呼び方、アルコールイッキ飲み防止についてなどの話をした。

平成11年から藤田先生も参加し、先生からは（部活の試合中突然死があったため）突然死予防のためのクラブ開始前の健康チェックの仕方及び救急蘇生法の講義を追加した。平成12年から（マムシ咬傷事件に対応して）有害動物・昆虫に対する注意を追加した。

平成13年から（飲酒も関係した学生の死亡に対応して）イッキ飲み、飲酒強要の防止について藤田先生よりはたらきかけをお願いした。

#### ⑧アルコール教育について

これについては、本号の保健管理コーナーIris Health「アルコールパッチテストの実施」に詳しく記載されている。

### IV. 保健管理センターホームページ

平成11年に藤田定先生の意欲的な取り組みによって開設された。

### V. 健康診断書の自動発行

平成13年から健康診断書が自動発行になりました。これも、藤田先生の全面的な協力が可能となった。

### VI. その他

ハードの面ではトイレの改修（車椅子乗り入れ可能）、シャワー室の設置、自動ドアの設置、フロアの改修などがある。特にフロアの改修に

関しては当センターのシンボルである竹を切って広くしました。広く明るくなったフロアに設置してある体脂肪計、血圧計、身長、体重計、マッサージ器、足マッサージ器、エアロバイク、ボディソニック、などを利用したり、ソファでくつろいだり、以前にもまして当センターを利用する学生や職員が多くなった。

私の在職した期間は、健康管理から健康増進・健康支援に流れが変わりつつある時期であった。そのような流れをくんで健康教育・保健指導に取り組んできた。しかし大学生に対する健康教育後すぐに結果がはっきりわかることは少ないと思います。どれだけ学生が健康に関心を持ち健康増進に役立っているかわかりません。そんな中で卒業生が当センターを訪ねて来て「肥満指導を受けてよかった」、「社会人になってからも肥満に気をつけて元気に働いている」、「あれから禁煙を始めた」、「月経痛が軽減した」などと時々結果をしらせてくれる学生がいる。そういう学生達に励まされて私はこれまで保健指導を続けることができたと思う。

平成16年度から国立大学の独立行政法人化がスタートして色々なことが変わりつつある。だが、どんなに制度が変わっても大学は学生あつての大学です。学生の心身の健康を支援する保健センターの役目は重要である。大学が今後どのように変わっていくかわからないが更なる発展を祝願したい。

### VII. 終わりに

最後になりましたが前センター所長の渡邊久雄名誉教授・センター長の村松常司教授をはじめ先生方・就職厚生課の事務官・日々の業務で苦勞を共にして下さった看護職の会場良さん・矢島すみ江さん・荒武幸代さんに心からお礼を申しあげます。ありがとうございました。